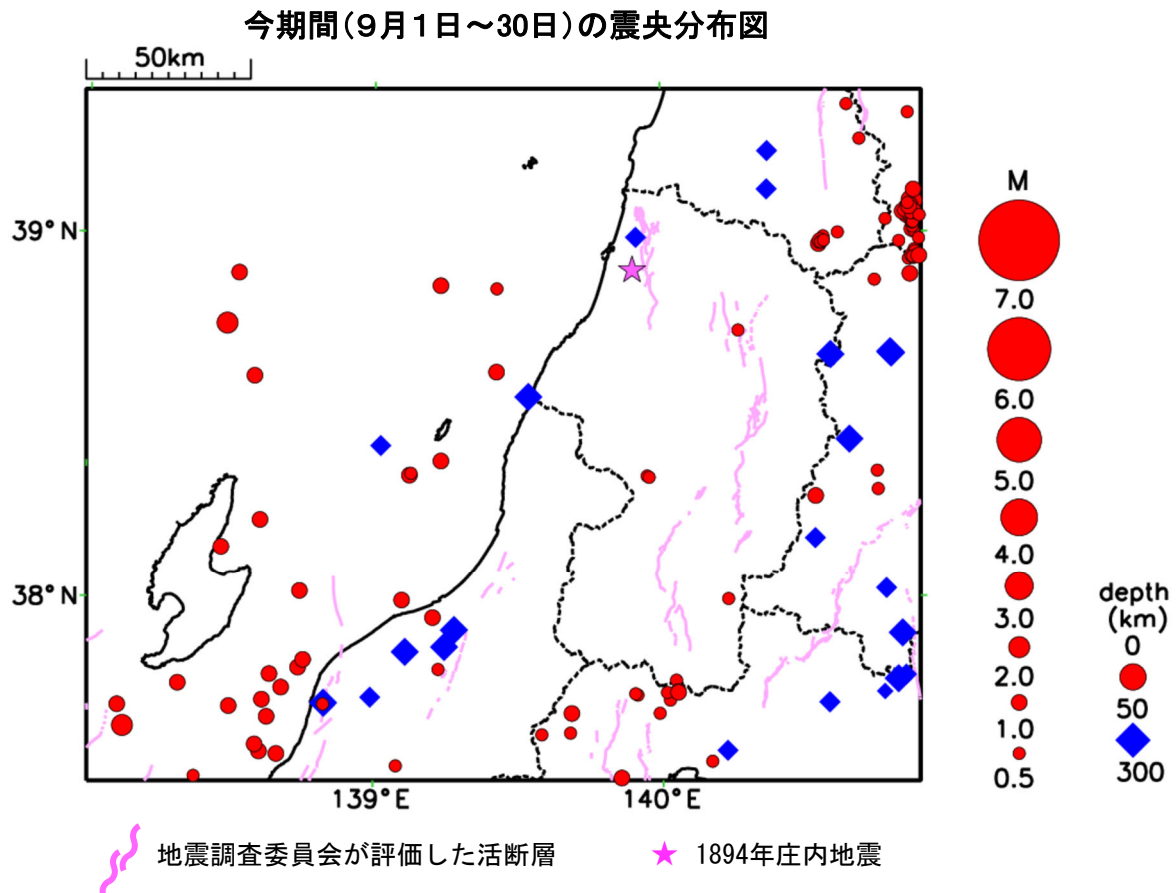


山形県月間地震概況（2026年9月）

山形地方気象台



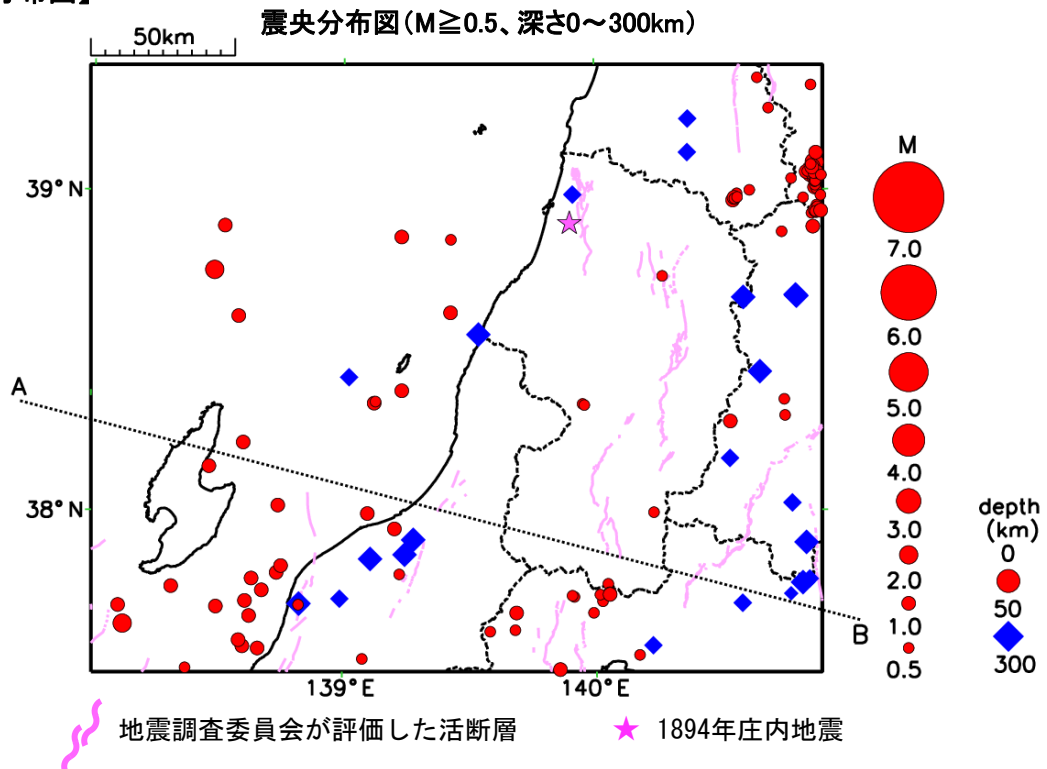
【概況】

期間中に県内で震度1以上を観測した地震は0回(前期間7回)であった。
この期間、特記すべき地震は発生しなかった。

※本資料では、地震の規模を示すマグニチュードを「M」として表記している。

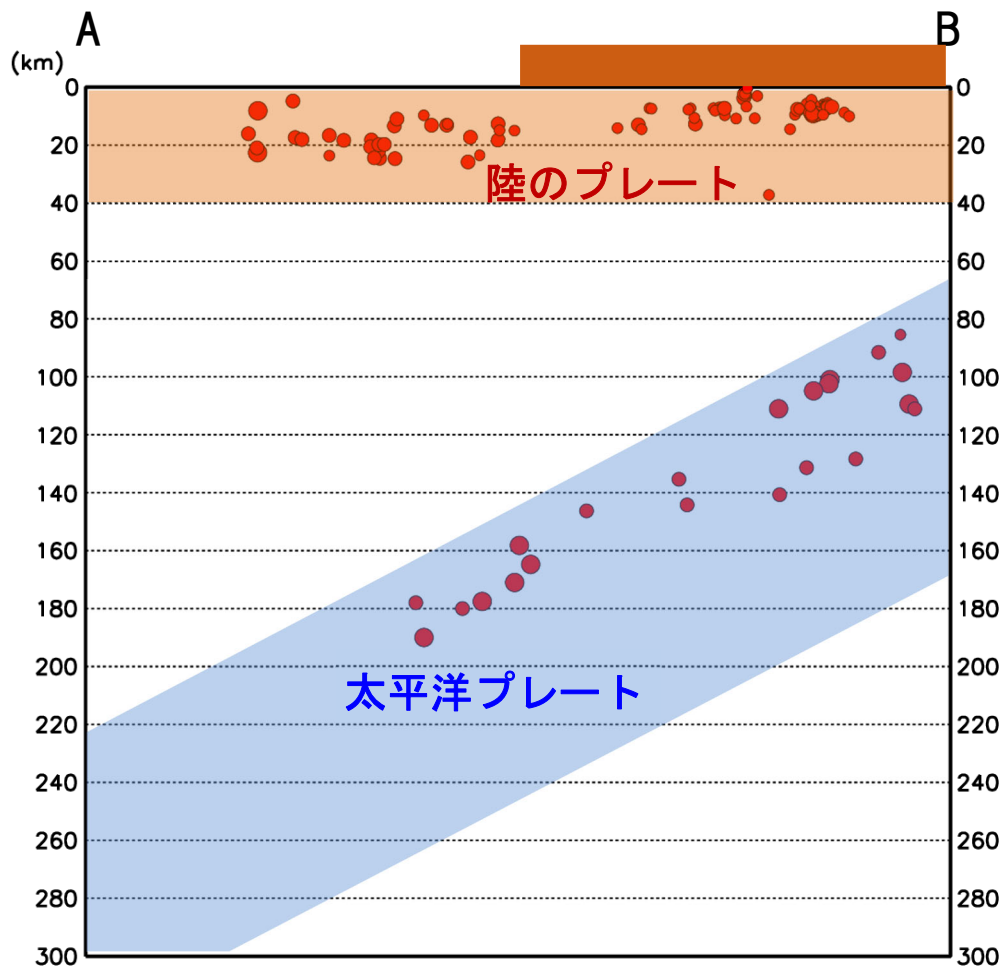
※山形県の各地の震度の詳細は、別紙「山形県で震度1以上を観測した地震の表」を参照。なお、震源要素等は、再調査により変更することがある。

【震央分布図】



【断面図】

断面図は震央分布図内の震源を直線A-B(太平洋プレートの沈み込む方向)に投影したものである。



※太平洋プレート及び陸のプレートの位置は、地震発生状況を考慮して描いた大まかなものである。

※ は陸地の大まかな位置を示している。

※陸地から離れた海域ほど、震源の深さ精度は良くない。なお、沖合いの地殻内で発生する地震の震源は、実際はより浅いものが多いと考えられる。

11月5日は津波防災の日

平成23年3月に発生した東日本大震災を受けて平成23年6月に制定された「津波対策の推進に関する法律」により、国民の間に広く津波対策についての理解と関心を深めることを目的として、江戸時代に大きな津波被害をもたらした「安政南海地震」が発生した日である**11月5日**を「津波防災の日」に決めました。

津波防災への理解や関心を深める機会として津波からの避難について職場や家庭で話し合ったりお住まいの地域で津波避難訓練が行われる場合には参加したりしましょう。



日本海側の津波は思っているより早く来る！

日本海側の地震はプレートの比較的浅い領域で発生するため、海底地形の影響を受けやすく津波が高くなる傾向があります。また、断層から陸地までが近いため、津波が早く到達する傾向があります。

◆日本海側で発生する津波の主な特徴◆

- 地震発生後の津波の来襲は東北太平洋側のケースよりも早い
⇒津波を起こす断層（海底がずれる部分）の位置が沿岸に近い。
- 地震の規模（マグニチュード）の割に津波が高くなる
⇒断層が浅く、また、海水を上下に大きく動かす角度でずれるため。
- 津波は繰り返し、収まりにくい
⇒波が日本列島と大陸で何度も反射するため、警報が長時間継続することになる。

津波の危険がある場所には、「津波注意」、「津波避難場所」、「津波避難ビル」を示す**津波標識**が設置されています。海岸に行った際には、まずこれらの標識を目安にして避難場所や避難経路の確認をしておきましょう。



津波注意



津波避難場所



津波避難ビル



津波避難場所の案内版



津波から身を守る方法については気象庁HPの「津波から身を守るために」をご覧ください。

https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/tsunami_bosai/index.html

eラーニング教材で地震・津波の知識を学び、いざというときに備えましょう。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jma-svd-el/jishin/jishin-tsunami.html>